



文苑

新年梅

御製

たちかへる年の朝日に梅のはな

かをりうめたり雪間なからに

皇后宮御歌

大君の千代田の宮の梅のはな

るみほころひぬ年のはしめに

東宮御歌

あらたまの年の始の梅のはな

東宮妃御歌

見るわれさへにほゝるまれつゝ

あたらしき年のほきこといひかはす

袖にもかをる梅のはつ花

深夜

鶯

水

朽ちし軒端のきばに有明ありあけの

月の光つきひかりにすやぐと

寐ねる子このわきも寒さむさげに

マチの箱はこはる少女をとめあり

雪の朝

つねを

まどの戸としろくわけ初はつむる 冬ふゆのあしたの嬉うれしさよ